

平成28年度 第1回臨床研究部研修会 ～国病学会予演会～

当院職員45名の方に参加していただきました！

開催日：平成28年10月31日(月)17:45～

会場：地域医療研修センター(前)



座長：橋爪臨床研究部長

1 臨床研究部 福田 奈緒子

「当院における医学研究倫理についての意識評価とCITI Japan認識度の調査」(ポスター)



2 薬剤部 山脇 未央子

「新規経口C型肝炎治療薬剤の適正な在庫管理に向けての当院の取組み」(ポスター)



3 薬剤部 菊池 貴大

「地域医療を見据えた上での退院時指導の取組み」(口演)

4 臨床工学技士 竹内 雄大

「バッテリーチェッカの有用性と考えられる経済性」(口演)



5 検査科 高木 亜衣

「血液培養結果の報告と広域抗菌薬変更の関連について」(口演)

6 リハビリテーション科 熊谷 成美

「患者家族への分かりやすい情報提供を目指して」(ポスター)

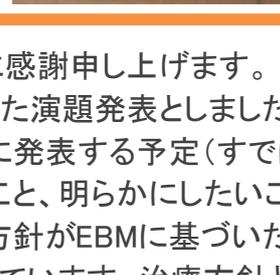
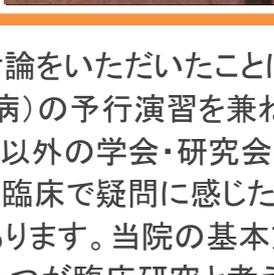


7 感染管理 吉倉 有希乃

「A病院における*Bacillus cereus*による血流感染アウトブレイク制圧3年目の実態調査」(ポスター)

8 臨床研究部長 橋爪 俊和

「心不全患者における入院時尿中Na/Kの検討」(ポスター)



平成28年度第1回研修会には多くの方々にご参加いただき、活発な討論をいただいたことに感謝申し上げます。本年は通常と異なり、第1回研修会を国立病院総合医学会(以下 国病)の予行演習を兼ねた演題発表としました。メリットは演題の集まりがスムーズであることですが、デメリットは国病以外の学会・研究会に発表する予定(すでに発表した)の方々から演題がほとんどないということです。研修会は日常臨床で疑問に感じたこと、明らかにしたいことなど、最終的には患者に還元するための問題を検討・議論する場であり、当院の基本方針がEBMに基づいた医療を掲げていることより、やはりその検証は必要であり、その手段の一つが臨床研究と考えています。治療方針として、fire and forgetというやりっぱなしというものもありますが、やはり常に、どの職種でも医療業務の検証と評価は後ろ向き・前向きともに行うべきであります。さまざまな局面のある厳しい医療環境を生き抜くために、この研修会を利用した課題研究も医療業務体制の構築の一つと思います。症例・事例報告も深く調べれば数多くのことを発見できるはずであり、患者のためになりうると考えます。次回は、症例事例報告を中心に開催することも企画しています。